



人類はひとつ 世界中に友情の
橋をかけよう

MANKIND IS ONE- Build Bridges of Friendship
Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋

出席報告：会員70名 出席56名 出席率80.00% 前回出席率74.29% 修正出席60名 確定出席率85.71%

ガバナースピーチ

ロータリー創立記念日
世界理解と平和の日について

ガバナー 石 黒 慶之助 君



1905年2月23日(明治38年)シカゴ市ディアボーン街ユニテビルでロータリークラブが誕生してから、78年目の創立記念日を迎えます。

今年度、向笠会長は、MANKIND IS ONE-Build Bridges of Friendship Th-

roughout the World のテーマを掲げ、世界理解と平和を念じておられます。先生は今回の創立記念日を“世界理解と平和の日”とするよう呼びかけておられ、貧困による飢餓、疫病に悩まされている発展途上国の方々、或は戦乱による難民の救済など数多くの世界社会奉仕の仕事をかかえています。更に財団の事業としての奨学金制度にも多額の出費がかかっており、その支援をお願いするよう要請されております。即ち、ロータリー財団では、本日の創立記念日を期して、「世界理解と平和のためのロータリー財団基金」を設置することを決議されました。恒久的基金～信託基金として財団を永続させる考えであります。これについて全ロータリアンは1人1\$のご寄付をお願いするよう要望されております。本日のご寄付は勿論クラブの財団の成績に加算されますのでよろしくお願い致します。

世界は米ソ超大国を軸にして、軍備を増強し、或は経済不況のため先進諸国も発展途上国もゆれ動いております。自由主義国家も全体主義国家も経済不況の中で、将来共に安全だといえる国は何処にも見当りません。何処の国民も平和を愛し、国民の繁栄を願わぬ国はない筈です。ポーマー元会長は“平和は戦争の勝利に勝る勝利である”と言っております。

中曽根首相が“日本列島を不沈空母とする”と言

明すれば、ソビエトはSS20中距離ミサイルをシベリアへ移転するとか。シュルツ国務長官はジュネーブ会議でそんなことはさせないとか、仲々微妙な雲ゆきであります。

ロータリーでは皆様の善意と友情を基に、相手への想いやりの心をもって、国際理解を推進することが“平和への唯一の道”と考えております。

全体主義国家や共産圏諸国へのロータリーの進出がないのは極めて残念であります。現在チェコスロバキアに1つR.C.があります。北京にも外人だけのR.C.を作ろうかとの気運があります。イランには14R.C.あったが、昨年末R.I.より定款・細則を守っていないことから認承を取消されました。

鶴岡市とニューブランズウィック市の姉妹都市盟約は既に皆様ご承知であり、その媒介をしたのが当クラブであることをご存知でしょう。

昭和34年(1959年)鶴岡R.C.創立後間もなく初代会長小花盛雄氏が松本狭市長の委嘱を受けてニュージャージー州ニューブランズウィックR.C.を通じ、姉妹都市とロータリークラブの姉妹クラブを結んだのです。この縁結びの発端となったのは、庄内藩士高木三郎がN.B.市にあるラドガー大学に学んでいたことと聞いております。

先般ブリタニカ社発行の「日本のリーダー」の高橋是清の項を読んでいると、この高木三郎の洋行が書いてありましたのでご紹介いたします。それによれば、勝海舟が長男15才の小麓を英語の勉強を兼ねアナポリスの海軍兵学校に入学させようとして、その付人として仙台藩の富田鉄之助(後に日銀副総裁となる)と庄内藩士の高木三郎をつけてコロラド号で渡米させられたとあります。そしてその船には高橋是清、鈴木六之助、薩摩藩の伊東四郎(後の海軍大将伊東祐亨)国義次郎(薩摩屋敷焼打ちで庄内藩より殺される)等も同乗した。その際勝小麓、高

庄内空港の建設を推進しましょう

木三郎、富田鉄之助の3人は上等船室に乗り、高橋是清等の一行は下等船室に乗ったとあります。この若い少年達が出発したのは慶応3年(1867年)7月25日横浜沖からでありました。24日間かかってサンフランシスコに到着しております。高木は船中で鬻を落したそうです。戊辰戦争は明治元年9月~11月ですが、高木はそれを心配し勝海舟を頼って1年半位で帰国した。しかし間もなく富田、高木は共に再び渡米しラドガー大学へ入学したものと思います。高木は大学卒業後米国にとどまり領事となって日米親善に働いたようですが、私はその終末を知りません。いずれにしても庄内から百数十年前このような先覚者が出たことは鶴岡市民の誇りでありましょう。

ニューブランズウィックR.C.との姉妹クラブ関係は最近疎遠になっており残念に思います。昨年新穂光一郎さんが同市を訪たが、クラブとの姉妹関係の確認には致っておらないようです。

今までの経過は張紹淵さん、三井徹さんの方がよく判っていると思いますので、両先生から歴史をまとめて頂けないでしょうか。

私はクラブの10周年誌より次の事実を拾ってみました。

○昭和34年小花会長がN.B.-R.C.を訪問、姉妹クラブ締結。

N.B.-R.C.より米国の医学雑誌(JAMA)、内科医学雑誌など送られてきた。こちらから“THIS IS JAPAN”という写真集など送った。郵便切手の相互交換を行う。

- 昭和35年5月には張紹淵氏がN.B.-R.C.を訪問。
- 〃 11月N.B.市長より会長へメッセージ来る。
- 〃 12月N.B.-R.C.会長より三浦国際奉仕委員長宛祝詞を頂く。
- 昭和36年6月Louis Migliorini氏(N.B.-R.C.会長パストガバナー)夫妻R.I.第52回年次東京大会へ出席し、鶴岡市を訪問。酒井邸内にてガーデンパーティー開く。また市とR.C.共催で市民歓迎会などを行う。
- 昭和36年(三浦岩次郎会長) 両市の市長外首脳の写真の交換。クリスマスカード交換。
- 昭和37年(佐藤伊和治会長) 9月25日N.B.-R.C.会員Dr. Kler氏ご夫妻来訪。N.B.-R.C.の新しいパーナーを贈られる。高木三郎の留学したラドガー大学を絵にした飾り皿を頂く。12月にはKlerさんから

小中学生のかいた図画43枚と歳末助け合いへの義援金をクラブへ10,000円、市へ5,000円寄贈された。

- 昭和38年(池内方平会長)
 - ・ケネディ大統領の暗殺に対し、N.B.-R.C.へ謹んで弔電を打つ。
 - ・Dr. Kler氏よりSlid写真沢山送られる。斎藤栄作君N.B.-R.C.訪問。
 - ・N.B.-R.C.へXmasと新年のメッセージを送る。庄内地方地震にN.B.市長より見舞状頂く。
- 昭和39年(斎藤栄作会長) 田中勉君N.B.-R.C.を訪問。
- 昭和40年(張紹淵会長) 三井玉男君交換学生として渡米中、N.B.-R.C.を訪問する。
- 昭和41年(早坂源四郎会長) 加藤絏一氏N.B.-R.C.を訪問する。N.B.-R.C.より日本人墓地の清掃活動の写真送られて来る。
- 昭和42年(斎藤得四郎会長) N.B.-R.C.で日本人墓地清掃の方々へイズメコ人形を贈る。Xmasカードの交換。
- 昭和43年(石黒慶之助会長)
 - ・N.B.-R.C.へXmasと新年の挨拶を兼ね過去10年間のクラブの活動を整理し英文翻訳して解説を贈る。
 - ・2月28日Louis.B.Migliorini氏逝去の報に接し弔電を打つ。
 - ・5月20日(昭和44年)三井徹君N.B.-R.C.を訪問し、会長メッセージを送る。市長のレセプションに招かれた。
 - ・10周年記念祝賀にN.B.-R.C.会長ヘンリーJ.ダガター氏よりお祝いのメッセージを受ける。
- 昭和44年(三井徹会長) N.B.市からクロンカイト夫人とラスト嬢が来訪する。その後、目立った親善活動を行っていないようである。如何にして旧交を温めるか?
 - ・青少年交換をクラブ対クラブで行うこと。短期交換でもよい。
 - ・G.S.E.の交換 ・ペンフレンドの募集
 - ・Xmasカードの交換 ・会員同志の相互訪問
 - ・姉妹クラブの盟約書はどこにあるか?などを検討し、今後の計画を進めて下さい。

会長報告

中江亮君

- R.I.のInternational Relationship Programに基いてメキシコのD-417のZACATEPECクラブから地区組合せ(マッチド)クラブとして、当クラブを選んで、今後おつき合いを正式に申し込みが来ています。理事会はこの申し入れを承認しましたので、私から早速返事を先方クラブの会長さんに出したいと思います。
- タイ難民救済募金(主催山形新聞グループ)に3万円を寄付することにしました。
- “鶴岡・N.B.市民の会”結成について鶴岡市役所から呼びかけがきていますが、当クラブもこれに賛同することにしました。
- 台中港区R.C.の12周年記念式典のお祝いにクラブから数名を派遣した方がよいのではないかとということで、皆さんにご参加を呼びかけることに致しました。先に申し上げました鹿児島西R.C.20周年記念式典への参加を含めて、クラブから若干の補助を出すことにしました。参加される方は早急にお申し込みをお願い致します。
- 3月8日の例会は市のホームヘルパーの代表をお招きしてお話を聞くことにしてありますが、その時にホームヘルパーのご苦勞に感謝を表明するため、16名にささやかな記念品をおあげしたいと云う、山口社会奉仕委員長の提案がありまして、3万2千円を支出することにしました。
- 3月中旬以降の例会プログラムを、ゲスト中心から会員及び委員会に重点を移すようにプログラム委員長にお願いしてありますので、プログラム委員会の計画に積極的に折込んで頂くようお願い致します。
- 新しく入会された手塚拓さんの委員会所属をS.A.A.にお願い致します。

幹事報告

佐藤元伸君

- 会報到着 山形R.C. 山形西R.C. 山形北R.C. 山形南R.C. 米沢西R.C. 米沢R.C.
- ガバナー月信の誤植訂正の通知が参っております
 - ・ ガバナー月信8号、8頁の出席報告の中で郡山東クラブの12月末日会員数
83-53 増減 +31-+1
誤正 誤正
 - ・ ガバナー月信9号、1頁の表題
COSINS - COUSIN
誤正
 - ・ 同頁本文13行目
Cosin - Cousin
誤正

ロータリー財団委員会

佐藤衛君

今日は2月22日。2月の最終例会であります。2月23日はロータリー創立28周年記念日となっております。今年からこの日を世界平和の日と定め、会員1人当り1\$をロータリー財団或は世界社会奉仕事業へ献金するよう要請されております。

当クラブは中江会長さんの諒解を受けまして、ロータリー財団の方にご寄附をさせていただきます。ロータリーの原点をみつめ、全員よろしくご協力願います。

この記念すべきときに、会員の吉動勲さんが、ポール・ハリス準フェローになるため、ご寄附を頂いております。当クラブ本年度11人目の準フェローでございます。

情報委員会

小池繁治君

たまたま創立記念日に合したわけではございませんが、明日が1905年2月23日というのはロータリー誕生の日で、それを記念してということではありませんが、ロータリー情報委員会と致しまして、新らしく入会された方や比較的新らしい会員の方々とファイヤー サイド ミーティングを、本日午後5時30分より、中国飯店におきまして開催致しますのでよろしくお願い致します。

出席委員会

佐藤順治君



再三皆さんにお願いしておりますが、まだ出席の成績は良くないようでございます。

本年度の目標を93%と致しておりますが、1月末までの平均を取りますと、91.09%という数字になっております。

まあ90%以上であればどのような感じもありますけれども、ご承知の通り出席は、競争となっております。今日のガバナー月信にも掲載されているように、みな順位がついておるわけでございます。

一番成績の良いときで、43、45、50、51、55というような50位を基準にして、上下している状態があります。クラブの数は76だと思っております。その中の50前後では決して優秀な成績とはならないのではないかと思います。今日のファイヤー サイド ミーティングにおきまして、出席とはこういうものと、声を大にして、一つお願いしたいと思います。

これからもまだ間がありますので、出席につきま

してよろしくご協力の程お願いいたします。

スマイル

張 紹淵君 ニューブランズウィックの話に対して

ゲスト

石黒慶之助がバナー

ビジター

温海 R.C. 佐藤五右エ門君 阿部一太君
立川 R.C. 滝 禅源君
鶴岡西 R.C. 佐藤 等君 鈴木昭吾君
長野正彦君

ロータリー入門より抜粋

◎クラブの例会に已むを得ず欠席する場合、ロータリアンはどうしたら、会員身分の保全ができますか？

欠席した日の直前の所属クラブ例会の定例の時から欠席した日の直後の所属クラブ例会の定例の時までの間に、他のどこかのロータリー・クラブ又は仮ロータリー・クラブの例会に出席してその欠席を補填すればよいのであります。もし正当かつ充分な理由から、クラブの例会に已むを得ず連続4回欠席し、しかもその期間中他のクラブの例会にも出席出来ない場合、クラブ理事会によって出席を免除されることがあります。但し出席のクレジットは得られません。

◎クラブ奉仕とはどんなことですか？

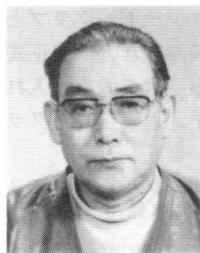
「クラブ奉仕」とは、ロータリアンが所属するロータリー・クラブの管理の成功に資する為に行なう次の様な行為をいいます。

- ・クラブ会合に出席すること
- ・クラブの親睦に寄与すること
- ・クラブの計画に参加すること
- ・委員となつてつくすこと
- ・役員をつとめること
- ・会費を払うこと
- ・クラブ外の活動に於てクラブを代表すること
例えば、ロータリーの会員でない人達にロータリーの綱領を説明したり、他のロータリー・クラブで話をしたり、都市連合会、地区協議会、地区大会に出席したり、新しいクラブの設立に当たって自分のクラブの代表したりすること。

職場紹介

三井農場 三井 健

三井農場と云うのが私の会社です。



創業は、昭和24年に遡りますが、現在でも当時とあまり変わらない小さなものです。

私どもの主たる業務は孵卵で、その為に約30名の従業員に30台の孵卵機と七種種鶏場

に約3万羽のブロイラー種鶏を飼育しております。

皆さん御存知の様にブロイラーと云う名前を身近に聞く様になったのは、近々20年足らずの事です。私の所でも創業来約15年間は採卵鶏の孵化を業務にしておりましたが、昭和40年頃からブロイラーの孵化に転じて、現在に至っております。私共で発売しているヒナは、「アーバーエーカー富士」と云う品種で、米国のアーバーエーカー社で出来たものです。私共で飼っている種鶏の父母即ち原種鶏は米国の会社と三井物産の合弁会社である「日本アーバーエーカー社」に輸入飼育され、そこから我々契約孵化場に種鶏として入れられ、更にその子供が私共から一般農家即ちブロイラー養鶏家に売られる仕組になっておるのです。面白いことに出来たブロイラーは個々の農家で市場に出すのではなく、インテグレーションと云う組織の中で処理されます。商社或は経済連等をインテグレーターにして私共から買い上げたヒナと餌を農家に貸して、出来たものを引取り、それを販売するシステムになっております。ブロイラーは主に骨付きの小型(約1kg)から正肉用の大型(約2kg)迄あり、夫々6週～9週迄飼育されます。現在山形県にはブロイラーの孵化場は私共1軒しかなく、月産約20万～25万羽の孵化です。残り半分は県外から入っております。私共もなんとかそのシェアを拡げるべく鋭意努力中です。ブロイラー産業は肉牛酪農などに比べ政策の恩恵には預かる所が少なかったと思いますが、こう云う時代になればそれがかえって幸いしたようにも思われます。

最後に、私の所では銀座通りに手造りの味「デクマート」という店で、鶏卵・鶏肉等の副産物を主原料とした惣菜の店をやっております。これは、前述した養鶏孵化部門よりは皆様にも稍身近に感じて頂けるのではないかと思います。オードブル、折詰等の仕出しもしておりますので、いっぺん御賞味頂ければ有難いと思っております。

(今週の担当者 松田 貞夫)